

今週（6月12日から6月16日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が350兆円前後と高水準で推移する中、15日に年金の定時払いがあり、週末には357兆円程度まで増加した。積み最終週であったものの、積み目処をつけていた先も多く、先週と同様落ち着いた展開となった。

積み最終日を目前に、オファーサイド、ビッドサイドともに最終調整の動きが見られ、出合いレートは地銀、証券業態から▲0.07～▲0.045%、都銀、信託業態から▲0.08～▲0.06%近辺になるなど、ワイドなレンジとなった。積み最終日の15日も大きな波乱は無く、無担保コールO/N加重平均レートは▲0.052%と、変化はほぼ見られなかった。新しい積み期間に入った16日は様子見姿勢が多く、レートがやや低下し、出合いは地銀業態が▲0.08～▲0.045%、都銀、信託業態が▲0.085～▲0.075%となった。

ターム物については、新しい積み期間にかかる6/16スタートの運用希望が多く見られたが、四半期末越えの運用を控える先が多く、月内エンドの▲0.045～▲0.02%オファーが中心となった。出合いはコール案件が中心であった。固定金利方式の共通担保オペは、15日に2W・8,000億円でオファーされ、1,790億円の応札（期落ち額1,950億円）となった。

日銀金融政策決定会合は15～16日の日程で開催され、金融政策の現状維持が決定された。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.10～▲0.065%のレンジでの取引となった。週前半は前週の流れとかわらず、▲0.10～▲0.095%程度での引き合いとなったが、14日のS/N(16-19)が新積み期の取引となったことに加え、週末の3日間を挟むことで投資家の資金調達意欲が高まり、▲0.085%程度まで上昇した。15日のS/N(19-20)はTDB3M物発行の影響で▲0.08～▲0.07%での引き合い。16日のS/N(20-21)は国債の大量発行、大量償還日にあたり、業者の売物が増加し、▲0.07～▲0.065%程度で推移した。

SCIは個別銘柄では5y125～131、10y334～335、10y336～346、20y160、30y49～54、40y9などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、日銀による短国買入オペ残高の減少傾向が続く中、海外勢の需要後退も見られ、レートは上昇地合いで推移した。

新発の入札は、14日に3M物、15日に1Y物が実施された。3M物の入札は平均落札利回▲0.1035%、按分落札利回▲0.0991%と概ね事前の予想通りの決着となった。按分落札利回が▲0.10%を上回ったこともあってか、店頭での販売も順調と見られ、セカンダリーは平均落札利回近辺の▲0.105～▲0.101%で堅調に推移した。1Y物の入札は、WI取引で▲0.115%の出合いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.1158%、按分落札利回▲0.1128%と、こちらもほぼ事前予想通りの結果となった。セカンダリーは▲0.124～▲0.120%と19日の短国買入オペを睨んでか、強含みの推移となった。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末を目前に控え、賞与支払等の要因があったことも手伝って鉄鋼、機械、商社業態等から大型発行案件が実施され、5,900億円程度の償還に対して、8,500億円の発行が見られるマーケットとなった。ただ、市場残高は引き続き15兆円強の水準から大きく上振れしておらず、月末のオペレートの低下への期待感も燦る中、投資家・ディーラーの玉確保ニーズは堅調で、発行レートは引き続き0%前後の水準で推移した。

14日にはCP等買入オペが3,500億円でオファーされ、平均落札利回0.002%、按分落札利回▲0.005%の結果といずれも前回比（平均0.000%、按分▲0.007%）で上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
6/12（月）	19,908.58	0.055	110.20	△ 0.054	△ 0.091	3,496,200
6/13（火）	19,898.75	0.060	109.99	△ 0.054	△ 0.095	3,515,000
6/14（水）	19,883.52	0.060	110.05	△ 0.055	△ 0.093	3,513,500
6/15（木）	19,831.82	0.050	109.70	△ 0.052	△ 0.087	3,562,600
6/16（金）	19,943.26	0.050	111.08	△ 0.060	△ 0.074	3,573,200

来週（6月19日から6月23日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
6/19 (月)	5月の貿易統計(財務省 8:50)				
6/20 (火)		流動性供給 5,000億円 6/22発行			
6/21 (水)	金融政策決定会合議事要旨(4月26,27日分 8:50) 全国信用金庫大会にて黒田総裁講演				5月の米中古住宅販売
6/22 (木)	青森県金融経済懇談会にて岩田副総裁講演 月例経済報告(内閣府)	TB3M 44,000億円 6/26発行	流動性供給 5,500億円 6/26発行		
6/23 (金)					5月の米新築一戸建て販売件数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/19 (月)	▲ 300	▲ 7,600	▲ 7,900	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完		6,900 ▲ 2,000 ▲ 100 700 100	10,900	3,000	TB3M発行▲44000 償還38600
6/20 (火)	0	25,000	25,000	貸出増加	▲ 7,000	26,400	19,400	44,400	利払い 機関貸付回収 TB1Y発行▲23000 償還2500 5Y発行▲22000 償還49300 10Y発行▲23000 償還58300 20Y発行▲10000 30Y発行▲8000 エネルギー対策借入▲7000 期日5000
6/21 (水)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
6/22 (木)	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	流動性供給▲5000 交付税借入▲10500 期日10500
6/23 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
週間合計	▲ 5,300	13,400	8,100	—	▲ 9,000	39,300	30,300	38,400	

6/19は日銀予想、6/20以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、20日の国債の大量償還を境に調達姿勢が変化するかどうかが目される。

レポ市場は、利国、短国の買入オペにより、業者の在庫は減少するものの、投資家の資金調達意欲は継続的に残ると見られ、足元は▲0.09～▲0.07%程度の推移と予想する。

短国市場は、22日に3M物の入札が予定されている。▲0.10%を上回る水準では一定の買いニーズがみられており、14日とほぼ横ばいの結果が予想されるものの、月末の担保需要次第では多少強含む可能性も考えられる。短国買入オペは19日と23日に実施される見通し。19日は7,500～10,000億円、23日は5,000億円程度のオファー額が予想される。

CP市場は、6月下旬に入り、新規発行量の変動やレート形成が注視される。

主要なイベントとしては、21日の金融政策決定会合議事要旨の発表などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入